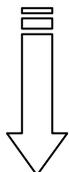


発生頻度の高い津波について(整理)

■発生頻度の高い津波

堤防等の整備を行ううえで対象とする一定頻度(数十年～百数十年)で発生する津波の高さを想定し、堤防等の整備に必要な設計津波の水位の設定の基準となるもの。



- 痕跡高調査や歴史記録・文献等を活用し、過去に発生した津波の実績津波高さの整理
- 十分なデータが得られない場合は、シミュレーションを実施しデータを補完
- 一定の頻度(数十年から百数十年に一度程度)で発生すると想定される津波の集合(設計津波の対象津波群)を選定
- 対象津波群の津波を対象に、設計津波の水位を設定し、これを前提に堤防等の天端高を設定

■南海トラフを震源とする地震・津波

○南海地震は過去繰り返し発生

⇒過去1000年間の平均発生間隔：約120年

出典：南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)(H24.8.29)
「南海トラフにおける発生頻度の高い津波の基本的考え方」

○連動で発生するが一定の時間差が生じている

⇒宝永地震(1707年)：同時発生、安政東海地震・安政南海地震(1854年)：32時間

昭和東南海地震(1944年)・昭和南海地震(1946年)：744日

○ある程度大きな津波を伴う地震の発生間隔(宝永地震など)：約300～500年

出典：南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)(H24.8.29)
「南海トラフにおける発生頻度の高い津波の基本的考え方」

■発生頻度の高い津波の波源モデル候補

前回調査委員会での検討結果を踏まえ、下記のモデルを対象に検討することとした。

- ① 東南海・南海地震2連動モデル(2003中防モデル)
- ② 東海・東南海・南海地震3連動モデル(2003中防モデル)
- ③ 1707年宝永地震モデル(連動型)
- ④ 1854年安政南海地震モデル(単独型)